

平成28年度 学校経営計画

練馬区立光が丘夏の雲小学校

学校教育目標

人間尊重の精神を基調として知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と、生涯を通して意欲的に学び続ける資質をもった児童を育成する。

目指す学校像(ビジョン)

【めざす学校像】

- ・教師と子どもが信頼し合い、子どもの夢を育む学校
- ・安心安全で人間性豊かな心を育む学校
- ・家庭、地域に信頼される学校
- ・オリンピック・パラリンピック教育の推進

【めざす子ども像】

- ・進んで学び 自ら深く考え 的確に判断できる子
- ・他者を思いやり感謝の気持ちをもって行動できる
- ・素直で心も体も健やかでたくましい子
- ・夢を育む子

【めざす教師像】

- ・子どもへの学びと心を育てることに、責任感をやりがいを持ち、全力で職務に取り組む教師
- ・他者を思いやり感謝の気持ちをもって行動できる
- ・全教職員が心身ともに健康で、使命感に燃え児童に夢を与えるために、一丸となる職員集団を形成できる教師
- ・授業力を高め、わかる授業を実践する教師

領域	中期経営目標	平成28年度の達成目標	具体的方策	評価指標・評価基準	
				努力指標	成果指標
学力の向上	基礎的・基本的な学習内容の確かな定着を図り、主体的・継続的に学ぶ力を育てる。	児童の実態を詳細に把握し、個々の学習状況に応じた、きめ細かい指導・支援を徹底することにより、確かな学力の定着を図る。	算数科で少人数指導・TT等を行う際に、学年で共通理解の下、課題別や習熟度別等の個に応じた指導を行う。 あらゆる学習の基礎になる、言語による伝え合う活動を、どの教科学習にも取り入れ、コミュニケーション能力を培う。	4 学年共通で個に応じた指導を5単元以上実施した。 3 学年共通で個に応じた指導を4単元実施した。 2 学年共通で個に応じた指導を3単元実施した。 1 学年共通で個に応じた指導の実施は2単元以下だった。	4 テストの平均で児童の80%以上が90点を超える得点が取れる。 3 テストの平均で児童の70%以上が90点を超える得点が取れる。 2 テストの平均で児童の60%以上が90点を超える得点が取れる。 1 テストの平均で90点を超える得点が取れる児童が60%未満である。
		読む楽しさを体得できる読書活動を推進する。	区立図書館・地域協力者等との連携を図りながら、意図的・計画的な読書活動を行なう。	4 全学級で取り組みを実施した。 3 80%以上の学級で取り組みを実施した。 2 60%以上の学級で取り組みを実施した。 1 取り組みを実施した学級は60%未満だった。	4 友達と考えや感想などを伝え合うことができる児童が90%以上である。 3 友達と考えや感想などを伝え合うことができる児童が80%以上である。 2 友達と考えや感想などを伝え合うことができる児童が70%以上である。 1 友達と考えや感想などを伝え合うことができる児童は70%未満である。
豊かな人間性の育成	お互いに認め合い、尊重し合う活動を通して、豊かな心を育てる。	人とふれ合う活動を通して、思いやりや、感謝する心などはじめとする豊かな人間性を育む。オリンピック・パラリンピック教育の推進の中、人権を尊重する心を育てる。	地域の人材やアスリート含むゲストティーチャー等として招き、人とのふれあいを通して豊かな人間性を培う。 異年齢集団活動としてたてわり班活動や幼稚園・保育園等との交流を活発にし、情緒豊かな思いやりや協力・感謝等の心を育てる。	4 全学級で地域の人材やゲストティーチャーを活用できた。 3 80%以上の学級で地域の人材やゲストティーチャーを活用できた。 2 60%以上の学級で地域の人材やゲストティーチャーを活用できた。 1 地域の人材やゲストティーチャーを活用できた学級は60%未満だった。	4 多様な人々と触れ合う活動がよかったと思う児童が80%以上だった。 3 多様な人々と触れ合う活動がよかったと思う児童が60%以上だった。 2 多様な人々と触れ合う活動がよかったと思う児童が40%以上であった。 1 多様な人々と触れ合う活動がよかったと思う児童は40%未満だった。
		自分のよさに気付き、将来への夢や希望をもって生活する態度を育てる。	小中一貫教育を充実させ、隣接の光が丘第三中学校の生徒、学校に対しての憧れ・信頼・尊敬等の心を培い、将来への夢と希望を育む。	4 異年齢集団の活動を年10回以上行なった。 3 異年齢集団の活動を年8回以上行なった。 2 異年齢集団の活動を年6回以上行なった。 1 異年齢集団の活動は年6回以下だった。	4 異年齢集団での活動が楽しく役に立ったと思う児童が80%以上である。 3 異年齢集団での活動が楽しく役に立ったと思う児童が60%以上である。 2 異年齢集団での活動が楽しく役に立ったと思う児童が40%以上である。 1 異年齢集団での活動が楽しく役に立ったと思う児童は40%未満である。
学校事務	適正な学校事務の遂行と、児童の視線に立った教育環境を充実させる。	学校施設等の有効活用を図り、教育効果を高めると共に、エネルギー消費削減等の環境教育を進める。	学校施設等の効果的な活用に努めるとともに、環境教育の視点に立ち、リサイクルや節電等の取り組みを徹底する。	4 全学級で節電の徹底等、無駄を削減する取り組みを行った。 3 80%以上の学級で節電の徹底等、無駄を削減する取り組みを行なった。 2 60%以上の学級で節電の徹底等、無駄を削減する取り組みを行なった。 1 節電の徹底等、無駄を削減する取り組みを行なった学級は60%未満だった。	4 無駄を削減し、資源を有効活用しようとする児童が70%以上である。 3 無駄を削減し、資源を有効活用しようとする児童が60%以上である。 2 無駄を削減し、資源を有効活用しようとする児童は50%以上である。 1 無駄を削減し、資源を有効活用しようとする児童は50%未満である。
健康・安全教育の推進	健康な生活を営む力を育成する。	オリンピック・パラリンピック教育を推進し、健康の維持、増進、体力向上と食育に連なって取り組む活動を行なう。	全体計画に基づき、食生活に関心をもち、その改善・向上を目指した日常的な取組みを行なう。 新体力テスト等により、自らの体力を知り、主体的に体力向上を目指した活動を行なう態度を育てる。	4 全学級で食生活の改善・向上を目指した取組みを行なった。 3 80%以上の学級で食生活の改善・向上を目指した取組みをおこなった。 2 60%以上の学級で食生活の改善・向上を目指した取組みを行なった。 1 食生活の改善・向上を目指した取組みを行なった学級は60%未満だった。	4 食生活に関心をもち、改善しようとする気持ちをもった児童が80%以上である。 3 食生活に関心をもち、改善しようとする気持ちをもった児童が60%以上である。 2 食生活に関心をもち、改善しようとする気持ちをもった児童が40%以上である。 1 食生活に関心をもち、改善しようとする気持ちをもった児童は40%未満である。
		安心、安全な生活を送る力を育成する。	学校の内外的安全な過ごし方に関する指導を徹底する。	4 全校で児童が主体的に体力向上を目指す活動を5回以上設定した。 3 全校で児童が主体的に体力向上を目指す活動を4回設定した。 2 全校で児童が主体的に体力向上を目指す活動を3回設定した。 1 全校で児童が主体的に体力向上を目指す活動を設定したのは2回以下だった。	4 主体的に体力向上を目指して活動した児童が80%以上である。 3 主体的に体力向上を目指して活動した児童が60%以上である。 2 主体的に体力向上を目指して活動した児童が40%以上である。 1 主体的に体力向上を目指して活動した児童は40%未満である。
人権教育	いじめ、体罰ゼロの人権尊重の学校をつくる。	児童にはお互いのよさを認め合い「伝える、伝わる」をテーマに教職員には体罰に頼らない指導観を徹底する。	きめ細かな観察と児童の実態アンケートをとり、常にいじめ把握に努める。特に体罰防止研修会を開き、教員の意識を高める。	4 児童、教員が人権感覚を見直す取組みを4回以上行なった。 3 児童、教員が人権感覚を見直す取組みを3回行なった。 2 児童、教員が人権感覚を見直す取組みを2回行なった。 1 児童、教員が人権感覚を見直す取組みを1回行なった。	4 いじめがある学級はなし、体罰をする教員もなしである。 3 いじめがある学級が1学級、体罰をする教員がなしである。 2 いじめがある学級が2学級、体罰をする教員がなしである。 1 いじめがある学級が3学級以上、体罰をする教員がいる。